かみりゅう

第　4　号

みなさん、新年あけましておめでとうございます。旧年中は上龍門地域まちづくり協議会の広報誌『かみりゅう』をご愛読いただき、ありがとうございました。

本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、上龍門地域まちづくり協議会の広報紙『かみりゅう』の第４号をお届けします。

今回の内容は、上龍門地域まちづくり協議会の萬世会長「年頭のごあいさつ」、昨年実施された「市長と語るふれあいトーク」と「上龍門地域探訪」、「上龍門地域防災訓練」、「先進地視察研修」の話題です。

◆◆◆◆◆ 年頭のごあいさつ

新年を迎え、役員一同心から新春のお祝いを申しあげます。昨年は、上龍門地域まちづくり協議会の事業や活動にご協力を賜りありがとうございました。今年もより一層のご協力をお願い申し上げます。

さて、本地域にまちづくり協議会が誕生して1年8月が経過しました。おかげさまで少しずつではありますが、いくつかの事業活動を通して自分たちの地域の課題に向き合っていこうとする動きが芽生えてきたように思います。一歩ずつですが、しかし確かな一歩ずつを積み重ねて、私たちの地域を活力とぬくもりのある住みよい地域となるよう、役員・委員一同微力ですが努めてまいる所存です。

昨今もそうですが、これからは、地域課題をすべてにわたり行政が解決してくれるといった時代はもう巡ってこないと言われています。すでに自治の基本に立ち返って、自分たちの問題は自分たちで解決するという流れになっています。このような状況のなかで、まちづくり協議会が発足し、地域課題と向き合うことが求められています。

私たちの地域は、２５０世帯で人口８００余名、高齢化率40％、15歳未満の人口は70名というまさに少子高齢の中山間地です。立地条件の厳しい小規模農林業地域でもあり、低い生産効率の中で農林業が持続できるかどうか、また、集落の機能低下までもが心配されるようになってきました。

しかし、20年後・30年後に想いを馳せて、このような地域活力の低下を嘆いていても何も始まりません。私たちが、どれだけ前向きに生き生きと、そして心豊かに安心して暮らせるかがこの地域の活性化の指標となります。そのためにも、もっと地域の人々が出会って交流したり、作ったものや生産した物が流通したり、いろいろな地域情報を発信したりして、多くの『もの』が移動し、活性化する上龍門地域になるよう努めてまいります。どうかより一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

上龍門地域まちづくり協議会　会長　萬世晴康

◆◆◆◆◆ 『市長と語る ふれあいトーク』を開催

10月29日（土）、上龍門地域で初めてとなる『市長と語るふれあいトーク』が田原集会所で開催されました。

この「ふれあいトーク」は、これからの地域のまちづくりなどについて市長と直接話し合うことで、これからの上龍門地域の活性化活動のヒントを得ることを目的としています。

今回は、

① 有害鳥獣対策について、依然として被害はあちこちで発生しており、イノシシやシカの個体数をもっと減らして適正な個体数に調整できないか。駆除や捕獲にかかる専門部所を設置できないか。また、前向きに農業が続けられる獣害に強い農法や新しい作物、販路開拓はできないか。

② 地域の防災体制確立を図るための側面的な支援や災害時の「自助」・「共助」にかかわるＡＥＤ【自動体外式除細動器】などの備品整備や宇陀産木材を活用した『室内用耐震シェルター』の普及・啓発などを含めた「新たな補助制度」を導入できないか。

③ 地域の交通安全対策について、県道宇太三茶屋線（下片岡地内ほか）の道路改良工事の早期完成を県に要望してほしい。中学生の遠距離通学者に対してスクールバスへの同乗、若しくはコミュニティーバス乗車に補助を。

④ 地籍調査については、土地の境界をお互いに確認していた物証が災害などで無くなったり、また境界に関する人証が失われつつある。今後の計画推進と上龍門地域での早期着手を。

以上の４つのテーマで市長との話し合いが行われ、参加者からは積極的な意見が出されました。

行政からは「地域の意見を参考にして、さまざまな対策を講じていきたい」との回答を頂きました。

まちづくり協議会では、今後、地域の活性化に向けて市と一体となって取り組み、豊かで住みやすい地域づくりを目指します。

◆◆◆◆◆ 牧地区で『第２回上龍門地域探訪』

秋晴れに恵まれた10月30日、まち協地域振興部会が所管する『第2回上龍門地域探訪』が牧地区で開催されました。

参加者総勢45名が2班に分かれて〝義経伝説〟をはじめ

とした歴史深い牧地区を散策しました。

参加者は、〝義経伝説〟では石増姓の起源とされる「義経座石【ょしつねざいし】」、「千本橋」や「千本塚」、千本川に架かる「義経橋（与志津禰者之【ょしつねはし】）」などを訪ね、また南北朝時代の南朝方忠臣　牧　定観【まき　じょうかん】・堯観【ぎょうかん】親子の居城であったとされる「今城【いまんじょう】（牧城）」跡や重要文化財指定となっている「十三重石塔」（**写真**）などの説明に聞き入っていました。

また「覚恩寺収蔵庫」では、覚恩寺本尊『木造阿弥陀如来座像』（県指定文化財）のほかに、鎌倉時代の作とされ、古くは栗野の「大蔵寺」とともに〝龍門七大寺〟の一つに数えられていた「法楽寺【ほうらくじ】【ぼうらくじ】とも言う」の本尊であったとされる『薬師如来座像』（重要文化財）の優美なお顔に心癒されるひと時でした。

最後に参加者は牧集会所に入り、実際には訪ねることのできなかった「法楽寺跡」や「今城跡」などを映像で訪ねるとともに、壬申の乱【じんしんのらん】の時に近江朝廷（大友皇子【おおともの みこ】）に戦いを挑むため吉野宮を発った大海人皇子【おおあまの みこ】たち一行も、津風呂川を遡って宇陀の阿騎野から東国に向かったとされることから、大海人皇子一行がこの牧の地も通過したのではないかなどと、遠い昔と歴史深い牧の地に思いを巡らせていました。

参加した皆さんからは、前回と同様に「楽しかった」のほかにも「地元が歴史深い地域だと再認識した」「紙芝居が素晴らしかった」などのご意見を頂きました。

平成28年度の『歴史探訪』はこれで終わりですが、平成29年度も地域をめぐり、地域の歴史に触れることで、地域を活性化させる一助にしていきたいと考えています。次回はあなたも参加してみませんか。

◆　◆　◆　◆　◆　◆

『第２回　上龍門地域防災訓練』実施

11月20日（日）、上龍門地域まちづくり協議会で2回目となる防災訓練が行われ、１４０名を超える地域の方々が参加されました。

当日は8時30分のサイレンの音と消防団の避難広報を合図に、大地震の発生を想定して自宅からの避難を開始。お互いに声をかけ合ったり、安否の確認を行うなどしながら、それぞれの自治会で設定した自主避難場所へ向かいました。

参加者は、避難訓練に引き続いて各大字から日本教育学院高等学校（旧田原小学校）へ集合。体育館で市防災活動支援員の笹尾さんによる地震対策に関する防災講話や、まちづくり協議会防災防犯部会長の尾上さんから『室内木造耐震シェルター』の説明を受け、いつ起こるかわからない大地震への備えの大切さについて学びました。また、宇陀消防署南分署の署員の方の指導により、簡易担架の作成と搬送訓練も行われました。

運動場では、消防署員・消防団員ほかの方々の指導により、水消火器などを使った初期消火訓練（**写真**）が行われました。

訓練に参加されたみなさんは、和気あいあいとした雰囲気の中、みんなで協力して、熱心に訓練に取り組んでいました。

災害は、いつどこで起こるかわかりません。災害に立ち向かうためには、一人ひとりが日頃から防災に対する意識を持って災害に備えると共に、地域のみなさんによる協力と助け合い（共助と互助）が大きな力となって、災害による被害を最小限にくい止めることができるのです。

まちづくり協議会では、今後も各自治会と連携して『地域防災』に取り組んでまいります。みなさんの積極的なご参加をお願いします。

◆　◆　◆　◆　◆　◆

『視察研修のご報告』

11月26日（土）、役員及び代議員など14名が先進地視察研修として、三重県松阪市の『宮前まちづくり協議会』と同県多気町の『せいわの里　まめや』の2か所を訪問しました。

『宮前まちづくり協議会』（**写真**）では、私たちからの質問（地域の特性や地域計画、課題など主な事業活動について）に、田中会長をはじめとした役員の方々から、一つ一つ丁寧な説明を頂きました。同協議会では現在、道の駅『飯高駅』での特産品販売拡充と古道ウォーキングコースの整備など、観光開発を基軸にした活性化に努めておられ、松阪市への補助金事業申請など予算の獲得・地域観光ボランティアの活用・マスコミ報道の活用を一体的に進め、観光での集客推進を図っておられました。

『せいわの里　まめや』では、地域の活性化を図るために、地元産大豆をはじめとした農産物の加工品製造、販売とバイキング形式の農村料理レストランを展開する約30名の女性グループの取り組みについて、代表の北川さんから説明を受けました。地域資源（近くにあるすべてのもの）を活用し、高齢者の知恵や技術の伝承を図ること（まめや流〝農村らしさ〟の追求）でふるさと愛好の思いを広げ、大きな成果を上げておられました。

上龍門地域まちづくり協議会でも、この2つの団体の取り組みを参考として、上龍門地域の活性化に取り組んでいきたいと考えています。

広報紙『かみりゅう』に関する連絡先

上龍門地域まちづくり協議会　地域振興部会

電話　090-8937-6713　まで

（担当　Y・T）